



2017コマーシャル部門2位 シルバーメダル  
Amber Griffin, New Zealand

# 募集開始 日本代表 2018WPC

## 6月下旬から日本代表 選考会スタート

つい先日、アジア初の2017 ワールド・フォトグラフィック・カップ(以下、WPC)を横浜で無事開催できたと思っていたのも束の間、来年の2018WPC オーストラリア大会に向けたエントリーがスタートしました。日本でも、もちろん来年も参加するために代表チームを結成すべく作品公募を6月下旬より開始しました。昨年同様プロ・アマ問わず日本国籍の写真家の参加を広く求めます。日本写真文化協会、日本写真館協会のホームページから応募できるので今すぐ御覧ください。

応募細則などはここでは割愛しますが、改めてWPCの意義を述べたいと思います。個人参加は認められず、国別に代表を決めて写真の技術及び芸術性を競う国際フォトコンテストであることはすでにご承知のことと思います。しかし、上位入賞写真を見ると普段私たちが撮影している写真とかけ離れており、違和感を持つ方も多いのではないでしょうか？

私達が参加しているフォトコンテストの多くは、①ポートレート、つまり人物写真ですが、WPCはポートレート

を含む全てのジャンルのフォトコンテストです。ポートレート以外にも、②ウェディング、③コマーシャル、④イラストレーション/デジタルアート、⑤ルポルタージュ/フォトジャーナリズム、⑥ネイチャー、の6ジャンルに分類されます。つまり世界中の写真館の全ての分野の写真を総合的に、しかも国別で競う唯一のフォトコンテストだということです。

特筆すべき点は、各国の窓口の多くが写真館の団体だということです。

その理由は、写真館の団体はどの国においても歴史があり、かつ写真家の数も多いからだと言われています。各国の代表チームは、そうした各国の写真館団体が国内の写真団体に声を掛けたり、一般公募して代表チームを作ります。写真を通してその国の写真家一つにまとまっていく、というプロセスはとても有意義で、その中心を担っているのが写真館として写真に携わっている写真家達です。

## 審査基準、デジタル加工への違和感と捉え方

では、「何故、普段私達が撮影している写真とかけ離れた作品が上位入賞す

るのか？」とか「何故、特定の国々が上位入賞している傾向があるのか？」という質問に対して、考えてみました。

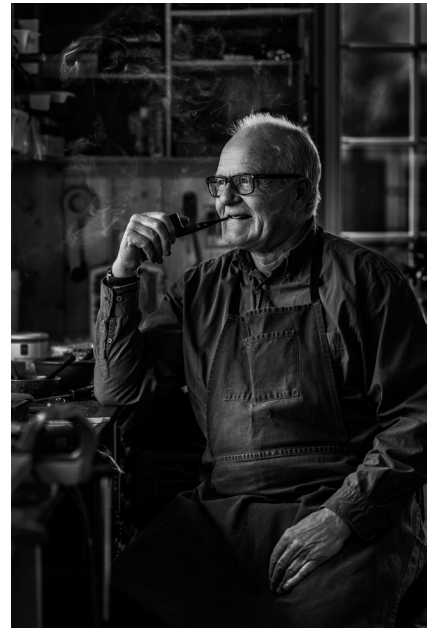
まず審査は各国から1名の国際審査員が選出されて1ヶ月にわたりインターネット上で審査します。この時に写真以外の情報は一切分からないように配慮されており、どこの誰の作品かは分からず4つの審査項目毎に100点満点で合計400点満点として採点し平均点が自動集計されます。その際は、最高得点と最低得点を排除して平均値をだすオリンピックの採点方法を採用しています。極めて公平性が保たれていますが、さらにその審査後に審査員の審査に問題が無かったかを別の審査員が再審査します。今年はデンマーク代表のヨーゲンブラント審査委員長と私の2名がその役に就きましたが、不正は見当たりませんでした。

続いて、「デジタル加工した作品が多く、上位入賞する傾向」。これは、各国の傾向を見ればある程度分かります。

アメリカはPPA(=全米プロ写真家協会)の年度コンテストの上位入賞作品をそのままアメリカ代表として出してきました。ヨーロッパの多くの国もFEP全ヨーロッパ大会の年度賞を受



2連続でW杯を手にしたポルトガル  
(2017年2月23日、撮影：河村好朗)



2017ポートレート部門 9th Place  
Bjørn Tore Stokke, Norway

# Cオーストラリア

一般社団法人日本写真文化協会・理事 岡本 昇

賞した作品を最優先で出していきます。

そしてWPCは北米大陸、ヨーロッパ大陸の参加国が多く、しかも審査員は各国から選出された1名。価値観を共有する機会が多い、いわゆる欧米諸国の参加が多い現在は、その審査基準に沿った作品が高得点を獲得し、上位になるのは必然です。しかし、念のために記しますが、各審査員は自国の作品は審査できない公平性を保ったシステムなので、自国の写真を有利に採点することはできません。

以上のことから結論を言うと、まず欧米の審査基準を研究しなければ国際審査で上位に食い込むことはかなり難しいと言うことです。これは競技である以上当然の事なのです。

## 「ジャパン-フォト」の 地位向上に活かせるチャンス

様々な方と話をすると、沢山のアドバイスを頂きます。

「本来私達写真館にいらっしゃるお客様が撮って欲しいと思う写真が上位入賞するべきではないでしょうか？」という、ご意見も頂きました。しかし、そうした目的を持ったフォトコンテストは、メーカーの主催するフォトコン

テストもあれば、私達の協会が主催するフォトコンテストもあります。同じようなコンテストを改めて国別でやる必要はありません。

むしろ、ここは車のレースを例えると、WPCは「F1レース」と考えてはいかがでしょうか？私たちはフォーミュラーレースのレーシングカーを見て、次買い替える車をどれにしようか？とは考えません。でも、そこに関わっているメーカーのイメージはとてつもなく車のトップブランドとして脳裏に焼き付くはずですよ。

WPCはまさにこの効果を狙える国際競技なのです。

つまり日本代表として世界の舞台上で競い、そこで入賞、メダル獲得、さらに国別対抗で優勝しWPCカップを手に入れたとなると、マスコミが必ず採り上げてくれるでしょう。この宣伝効果を狙いたいのです。

過去4年間を振り返ると、日本代表に選ばれた方は各地方の新聞雑誌やテレビの取材を受けました。これほどの宣伝効果はないでしょう。もちろん、今年世界のトップ10に入った日本人のお二人は多くの取材を受けました。

…世界のトップ10なんて別世界…

と思わないで下さい。今年の日本代表にはトッププロからアマチュアまで幅広く選ばれました。そして最年少の方は弱冠20歳、アマチュア写真歴ではたったの1年でした。でも、作品は素晴らしかった！中学生がプロの将棋で連勝日本記録を作ってしまう昨今、プロフォトグラファーの世界でも何が起こるか分かりません。

これらは全て必然でまぐれはありません。ご本人は今までチャンスに恵まれなかったわけですが、私達主催者側からみれば、発掘することができなかったという事です。来年の日本代表にはきっと隠れた人材をまだまだ発掘できると思います。みなさんも傾向と対策をしっかり研究して応募して下さい。心よりお待ちしております。

2018年5月6日(日)、オーストラリア・ゴールドコーストのシーワールドが会場です。同国きってのリゾート地、水族館と遊園地が合体したテーマパークに世界のトップフォトグラファー達が終結します。考えただけでも興奮しませんか？ゴールドコーストで世界のトップフォトグラファーとして、あなたが壇上に上がる姿を想像してみてください！きっと実現します！